

# 薬にたよらず自然排便を促すための看護の実際

中3階病棟 発表者 中尾 泰子  
山口 澄江・井出 佳代子・百瀬 桂子

## I はじめに

最近の一般的傾向として、安易に薬が使用されている。その中でも、便秘の際、下剤にたよりがちな人が、少なくない。当科においても、便秘の訴えがある患者に対しては、下剤の与薬が、安易な方法として、行なわれていた。

ここに、下剤の長期連用により、その副作用と思われる、低カリウム血症の一患者をみて、私達は、下剤の副作用を知ると共に、現在、下剤を服用している患者に対し、あらためて、その副作用を知らせ、薬の減量、又は、使用せずに、排便を促す方向へ、援助、指導することを、目的として、この研究に取組んでみた。

## II 看護目標

- 1 常習下剤服用者の、下剤の減量。
- 2 下剤にたよらず、自然排便を促す。

## III 方法

- 1 下剤服用者と個人面接し、質問形式による、アナムネーゼをとる。  
(アナムネーゼの内容)
  - ㊶ いつ頃から便秘になったか、又、その原因と思われるものは何か。
  - ㊷ 自分で、排便を促すために試みた方法。
- 2 患者に、毎日の食事水分摂取量を、記入してもらう。
- 3 医師の同意を得て、下剤の減量、又は中止し、排便を促す為の方法を指導する。

(指導内容)

便秘の方へ、下記の方法を試みて下さい。

- ① 朝起きたら、冷たい水、牛乳、果汁などを、コップ一杯飲む。
  - ② 毎朝、決った時間に、排便を試みる。
  - ③ 便意を催したら、我慢しない。
  - ④ 線維の多い、野菜、果物をとる。
  - ⑤ 腹部の両側を、マッサージする。
  - ⑥ 目が覚めたら、床の中で、親指とひとさし指の間をもみほぐす。
- 4 毎日の実施事項と排便の有無を、表にあらわしてもらう。

## Ⅳ 症例

### 1 患者紹介

氏名 ○野○子 27才  
職業 自動車学校教官  
病名 低カリウム血症  
入院期間 昭和52年6月20日～7月13日  
性格 一見、人あたりは良いが、神経質である。内向性。頑固である。我慢強い。  
家族構成 父母、兄夫妻、甥、姪2名  
実施期間 昭和52年7月1日～現在に至る。

### 2 経過

高校卒業後、運動不足により、急激に体重10～12kg増加し、それと共に便秘傾向となり以前は、ほぼ毎日あったが、約10日に1回の排便となったため、便秘に対処する一般的な方法を試みると共に、漢方薬「センナ」を毎日服用し、2～3日に1回の排便回数となった。

3年前からは、「アローゼン」を毎日就寝前に、常用量の約10倍の15gと、「プルセニッド」を、1日9錠服用するようになったが、排便回数は、同様2～3日に1回であった。

昨年40℃の発熱で、某医院へ入院した際、低カリウム血症、貧血、低血圧、胃潰瘍を指摘されたが、低カリウム血症は、副腎腫瘍によるものではないかと疑われ、当科に紹介された。

諸検査により、低カリウム血症は、「アローゼン」の副作用によるものではないかと考えられ、これについては、さらに精査を続けている。下剤減量により、症状改善をみて7月13日退院に至った。

## Ⅴ 結果

本症例においては、表1のごとく下剤の減量により、血中カリウム濃度は、一時期上昇をみる事が出来、その後上昇はしないまでも、著しい低下を防ぐことが出来ている。

血中カリウム濃度の改善をみるには、今後、半年から1年かかることが予想され、経過を追うこととなった。

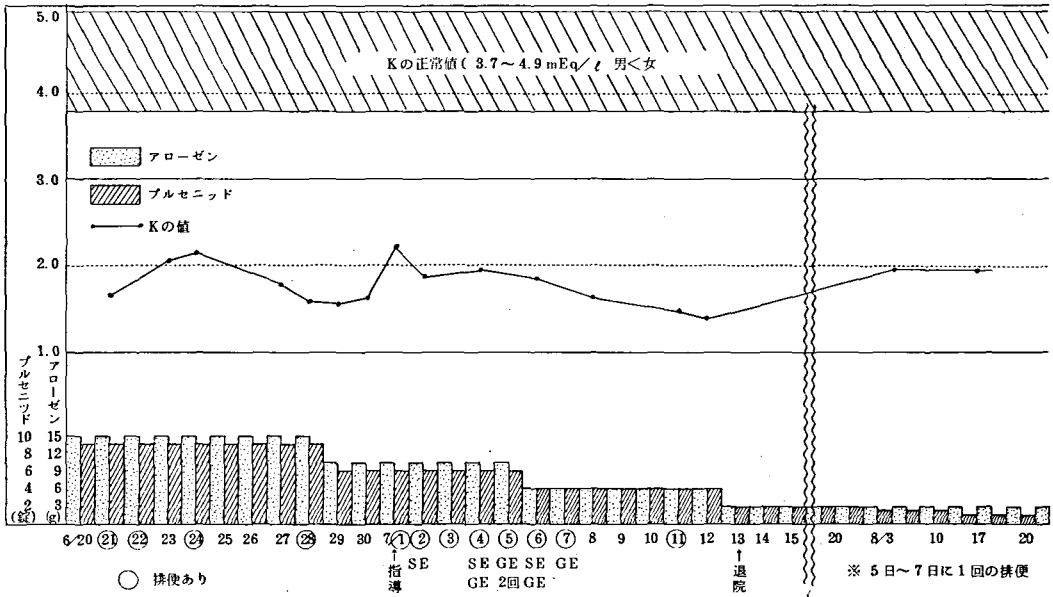
現在、下剤「アローゼン」を1日1g使用し、1週間に1回の排便回数ではあるが、出来るだけ下剤は使用しないように指導を続けている。

他の症例では、患者の下剤に対する認識を新たにし、その副作用を理解してもらうことが出来た。

指導した10例中、4例は減量に、3例は中止の方向にもっていくことに成功した。又、残り3例は、今後も下剤を服用せず自然排便を促す方法を取り入れていくことになった。

新たに入院して来た患者に対しては、スタッフ一同の統一事項として、自然排便を促す方法を試みるよう指導してゆくこととした。

表1 ○野○子氏 K、下剤、排便の関係



## VI 考察

今回の研究の目的は、下剤の減量、及び中止であったので、便秘の種類にこだわらず、現在下剤使用者及び便秘を訴える患者を対象に行った。しかし、特殊疾患で、下剤を必要とする患者については、医師と話し合い対象外とした。

便秘の原因として最も多かったのは、入院による精神的ストレスであり、次に運動不足、そして食事制限であった。そこで、特に精神面の援助として、個人面接を行ない、患者の訴えを聞き下剤に対する副作用について充分説明することに努め、2度3度とコミュニケーションの場を持った。これらのことにより、現在入院中の患者については、下剤使用頻度は少なくなり、また使用量も減らすことができた。

今後、さらにスタッフ一同検討し合い、良い方法があれば取り入れ、さらに充実したものにしていきたい。

参考文献は略させていただきます。